

開催日 2014年1月17日

場所 東京工業大学すずかけ台キャンパス B2棟4階426号室

第7回NMMSセミナーを開催しました。嶋田直彦先生（東工大生命理工学）は、生理的条件下において高温溶解型相分離挙動を示す非常に珍しい高分子を用いた研究をされています。この高分子を使ったタンパク質の簡便な分離方法や細胞へ与える影響などについての講演をしていただきました。続いて、遊佐真一先生（兵庫県立大工）は精密高分子合成についての研究を専門されており、今回は、厳密に分子量が制御されたブロック共重合体を用いて、様々なモルフォロジーを示す高分子自己組織体の設計・構築方法について講演していただきました。最後に、三好大輔先生（甲南大フロンティアサイエンス）は細胞内のクラウディング環境において生体分子がどのように振舞うかを熱力学的な観点から研究されています。高分子を使って細胞内環境を模倣した時、DNAの高次構造が試験管内とは非常に異なる挙動を示すことなどについて講演していただきました。

三人の講師の先生方ともに、細胞への応用を強く意識した高分子を使った研究であり、今後のナノメディシン研究にこれらの高分子が幅広く使われることが期待されています。

